

クマを引き寄せないために…  
クマに出会わないために…  
もし、クマに出会ったら…  
いったい、どんなことに気をつけたらよいのでしょうか？

# ツキノワグマとの 遭遇事故を 防ぐために

ーツキノワグマについて、学び、理解し、考え、遭遇事故を防ぐー



滋賀県



クマってどんな動物？



森に棲むクマは、普段なかなか見ることができませんが、里にも現れることがあります。本来は森林に棲む生き物で、広域的な行動範囲（大人の雄グマの行動範囲は約 30 ~ 100k m<sup>2</sup>）をもっています。また、多様な環境にまたがって暮らすことから、アンブレラ種と呼ばれます。

※アンブレラ種：行動圏が広く、かつ多くの生物が必要とする多様な環境を必要とする種で、その種を保全することが、生態系を保全する指標とされる種。

## ニホンツキノワグマ *Ursus thibetanus japonicus*

（ツキノワグマの日本産亜種）

※本州、四国に広く分布するクマの一種。ツキノワグマ（別名アジアクマ）は、地域によっていくつもの亜種に分けられている。日本産の亜種はニホンツキノワグマである。



分類：哺乳類 食肉目 クマ科

分布：東～東南アジア

体長：約 110 ~ 130cm

体重：約 50 ~ 100kg

※夏場は好きな食べものも少なく、軽いことが多い。

視力：あまりよくないといわれている。

聴力：非常に優れている。

嗅覚：非常に優れている。

性格：基本的におとなしく臆病であるが、突然出会うと攻撃してくる恐れがある。

得意なこと：木登り、水泳 ※走りは人よりも速く、時速 40km 以上

生息環境：森林

※春：山菜などを食べる。 夏：繁殖期でオスや若い個体の行動圏が広がる。

活動時期：春～晩秋 積雪時は冬眠 秋：重要な採食期で、冬眠に備え沢山の餌を求めて遠出することもある。

餌場：沢沿い、ハチやアリの巣のあるところ、ドングリ、ブナの森

クマは、どんなものを食べてるの？

春は山菜や木の新芽、初夏はネマガリタケのタケノコ、夏はウワミズザクラの実、秋は堅果類（ブナ、ミズナラ、コナラ、クリなど）をよく食べます。特に堅果類が不作の年には、クマは人里に出没しやすくなります。クマの好む植物と結実する季節をしっかりと理解しておくことも大切です。

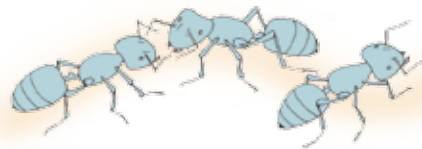


食肉目でありながら、植物食を主とする雑食性です。中でも、はちみつやハチの子が大好物で養蜂被害が発生するため、電気柵の対策が必要です。また、昆虫類を食べる他、山で死んだシカなどの動物の死体を食べることもあります。

<p><b>春</b></p> <p>フキ・セリ・アザミなどの草 ブナなどの新芽</p>	<p><b>夏</b></p> <p>ウワミズザクラの実 ハチ・アリなどの昆虫類 若いオグルミの実</p>	<p><b>秋</b></p> <p>アケビ・サルナシなどの実 キノコ類・ブドウ類 ブナ・ミズナラ・コナラ</p>	<p><b>冬</b></p> <p>クリ・オグルミなどの堅果 冬眠中は何も食べない</p>
--	---	---	--

クマはなぜ里までやってくるの？

最大の原因は、エサとなる植物、特に堅果類の不作だと考えられています。堅果類の量は年によって大きく変動し、その不作の年の秋に出没が多いことが知られています。また、里山の変化も出没が増えた原因の一つと考えられています。昔、里山の木や草は、薪や田畑の肥料として盛んに利用され、動物と人里とを隔てる緩衝帯がありました。しかし、近年は、人が里山を利用しなくなり、里の近くまでうっそうとした森林が広がり、クマなどの野生動物が里に出てきやすくなりました。



里山の変化



大正時代：尾根筋などで、わずかに樹が見られます。



2016年：山は樹木に覆われています。